

家庭科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態

	5 年	6 年
知識及び技能	○家庭生活が、身近な人々との関わりで成り立っていることや、互いに協力し助け合っていく必要があることに気付き始めています。 ○食材や目的に応じた調理の仕方では、個人差はありますが、手際よく作業ができるようになってきています。 ○裁縫の基礎的な技能を習得する学習では、個人差が見られます。	○家庭生活に必要な知識を習得し、家族の為に自分ができることを考え、実践しようとする姿が見られます。 ○食材や目的に応じた調理の仕方や様々な縫い方など、基礎的な技能を習得する学習では、個人差はありますが、上達してきています。
思考力、判断力、表現力	○家庭での仕事や手伝い、できる料理などの面で、生活に関わろうとする姿勢が見られます。	○住まいの快適な環境作り、季節にあった着衣、栄養のバランスを考えた食事など、習得した家庭生活についての知識や技能を活かして、生活を見直したり改善したりしようとする姿勢が見られます。
学びに向かう力、人間性	○自分や家族の生活に関心をもち、調理や裁縫などの実践的・体験的活動を積極的に行っています。	○自分や家族の生活に関心をもつことができています。 ○実践的・体験的活動を意欲的に行っています。

2 課題と改善策、検証方法

	5 年	6 年
課題	○調理や裁縫の玉結び・玉止め・基礎的な縫い方の技能について、個人差があります。	○調理や裁縫、ミシンの使い方等の技能について、個人差があります。
改善策	○家庭と連携を取り、学習したことを生かせる場面をつくります。 ○ICT 機器を使用し、教師が手本をみせます。 ○進みの早い児童や裁縫の使い方に慣れている児童と他の児童が学び合う場を作ります。 ○調理について、夏休みの課題を用い、学習したことを家庭で実施する場を設け、学習したことを確実に身に付けたり、できることを増やしたりします。また、家庭で経験したことをもとに、さらに授業の中で生かせるようにしていきます。	○家庭と連携を取り、学習したことを活かせる場面をつくります。 ○ICT を使用し、教師が手本を見せます。 ○手縫いやミシンを使った学習活動の場を設け、技能の定着を図ります。 ○進みの早い児童や裁縫やミシンの使い方に慣れている児童と他の児童が学び合う場をつくります。 ○学習したことを家庭で実践する場を設け、学習したことを確実に身に付けたり、できることを増やしたりします。また、家庭で経験したことをさらに授業の中で生かせるようにしていきます。
方 法 証	○夏休みの課題や授業の中での振り返りをもとに、実技が習得できているか確認します。	○完成した児童の作品や学習の振り返りをもとに、実技が習得できているか確認します。